

2025年3月期 第2四半期(中間期)決算の概要

1. 当第2四半期(中間期)の業績について

当第2四半期(中間期)は下表のとおり、前年同期に比べて、個別、連結とも減収減益の決算となった。

(百万円未満切捨て)

区 分				前第2四半期 (A)	当第2四半期 (B)	比 較 (B-A)
売 上 高	個 別	船 舶 事 業	新 造 船	(11隻) 23,185	(10隻) 20,740	(△1隻) △2,445
			改 修 船	(37隻) 2,741	(35隻) 1,602	(△2隻) △1,138
			そ の 他	173	138	△34
			計	26,100	22,482	△3,618
		陸上・サービス事業		31	37	6
		計		26,132	22,519	△3,612
	連 結 子 会 社	船舶事業		34	27	△7
		陸上・サービス事業		175	240	64
		計		210	267	57
	連 結	船舶事業		26,135	22,509	△3,626
		陸上・サービス事業		207	278	70
		合計		26,342	22,787	△3,554

(注)個別・連結売上高の主な減収要因は、新造船の売上対象隻数が前年同期に比べ1隻減少(11隻→10隻)したこと、売上対象船の船種の違い、各船ごとの決算日における工事進捗度が異なることによる。

改修船については、前年同期において、改造船工事、大口の修繕工事の完工があったことから反動減となった。

(百万円未満切捨て)

区 分			前第2四半期 (A)	当第2四半期 (B)	比 較(B-A)
損 益	営 業 利 益	個 別	2,674	624	△2,050
		連 結	2,691	636	△2,055
	経 常 利 益	個 別	2,682	368	△2,313
		連 結	2,698	377	△2,320
	中 間 純 利 益	個 別	2,189	353	△1,835
		連 結	2,197	357	△1,840

(注)個別・連結の減益要因は、新造船においては、資機材価格の値上がりや、人件費の高騰などの影響により、低採算となった船の売上高が占める割合が多かったため、前年同期に比べ減益となった。また、改修船においては、売上高と同様に前年同期からの反動減となり減益となった。

2. 船舶事業の受注状況等について

新造船市場においては、これまでの重油に代わる新燃料を造船所、船主ともに検討を進めているところであるが、その調達方法など具体的な方針が定まっていないことから、特に中小の船主においては、様子見の状況が続いている。また原油、鋼材価格及び人件費の値上がりに伴い製造コストは上昇し高船価化している一方で、運賃、用船料の水準が折り合わないことや、造船各社の期近な船台が埋まっていることから対象納期が3年以上先となるような先物も多くなっており、船主側に発注を控える動きがみられている。

このような状況のもと、受注については、新造船5隻、修繕船他で257億4百万円を受注し、受注残高は、新造船26隻他で998億16百万円(前年同期比16.8%増)となった。

3. 2025年3月期の業績予想について

通期の業績予想については、2024年5月10日に公表した業績予想から変更はない。
また、2025年3月期の配当については、1株当たり40円の期末配当を実施する予定である。
なお、当社の業績に変動を与える事象が生じた場合には、速やかに開示する。

(単位:百万円)

区 分	通期(予想)	
	個 別	連 結
売 上 高	44, 500	45, 000
営 業 利 益	900	900
経 常 利 益	750	750
当 期 純 利 益	700	700

(おわり)